

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北陸財務局長
【提出日】	平成30年11月14日
【四半期会計期間】	平成30年度第2四半期（自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日）
【会社名】	株式会社C Kサンエツ
【英訳名】	C K S A N - E T S U C o . , L t d .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 釣谷 宏行
【本店の所在の場所】	富山県高岡市守護町二丁目12番1号
【電話番号】	0766(28)0025(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理統括部長 松井 大輔
【最寄りの連絡場所】	富山県高岡市守護町二丁目12番1号
【電話番号】	0766(28)0025(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理統括部長 松井 大輔
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	平成29年度 第2四半期連結 累計期間	平成30年度 第2四半期連結 累計期間	平成29年度
会計期間	自平成29年 4月1日 至平成29年 9月30日	自平成30年 4月1日 至平成30年 9月30日	自平成29年 4月1日 至平成30年 3月31日
売上高 (百万円)	39,289	43,585	83,421
経常利益 (百万円)	2,453	2,477	5,897
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	1,519	1,423	3,636
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,802	1,671	4,315
純資産額 (百万円)	31,515	35,222	33,915
総資産額 (百万円)	54,408	57,495	58,126
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	190.22	176.68	454.22
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	51.5	54.3	51.8
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	686	2,035	39
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	247	877	1,055
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	1,038	952	1,029
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	888	1,002	801

回次	平成29年度 第2四半期連結 会計期間	平成30年度 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成29年 7月1日 至平成29年 9月30日	自平成30年 7月1日 至平成30年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	96.08	96.77

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

a. 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国を中心に、堅調に推移しましたが、米中の貿易摩擦に端を発した保護主義台頭のリスクが高まりました。わが国経済は、自動車や半導体の需要が堅調で、企業物価が上昇し、設備投資も旺盛でした。運賃などの経費や、資材・部品などの仕入価格は、軒並み上昇しました。また、労働力市場は、逼迫したままで、実質的に完全雇用の状態にありました。当社グループ（当社及び連結子会社）の主要原材料である銅の建値は、第1四半期連結会計期間にトン当たり80万円台を付けましたが、第2四半期連結会計期間に入るとやや下落して70万円台で推移しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、銅相場が前年同期と比較して高い水準だったため、売上高は435億85百万円（前年同期比10.9%増加）となりました。一方、営業利益は、銅相場が第2四半期連結会計期間に下落したため、22億99百万円（同16.7%減少）となりました。経常利益は、前年同期に98百万円発生した原料相場のリスクヘッジのためのデリバティブ損失が発生せず、デリバティブ評価損が20百万円（前年同期は2億83百万円）の発生に止まったため、24億77百万円（前年同期比1.0%増加）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は14億23百万円（同6.3%減少）となりました。

各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

伸銅

伸銅事業では、販売量は5万3,485トン（前年同期比0.1%増加）となりました。売上高は367億39百万円（同10.4%増加）となり、セグメント損益は14億60百万円（同35.5%減少）のセグメント利益となりました。

精密部品

精密部品事業では、売上高は22億8百万円（前年同期比11.1%増加）となり、セグメント損益は1億39百万円（同369.2%増加）のセグメント利益となりました。

配管・鍍金

配管・鍍金事業では、売上高は46億37百万円（前年同期比15.5%増加）となり、セグメント損益は5億61百万円（同68.8%増加）のセグメント利益となりました。

b. 財政状態の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は408億34百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億40百万円減少しました。これは主に、現金及び預金が2億1百万円増加したものの、受取手形及び売掛金が6億7百万円、たな卸資産が3億73百万円減少したことによるものであります。固定資産は166億61百万円となり、前連結会計年度末に比べ10百万円増加しました。この結果、資産合計は574億95百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億30百万円減少しました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は200億14百万円となり、前連結会計年度末に比べ18億44百万円減少しました。これは主に、支払手形及び買掛金が6億3百万円、短期借入金が5億60百万円、未払法人税等が6億96百万円減少したことによるものであります。固定負債は22億59百万円となり、前連結会計年度末に比べ92百万円減少しました。この結果、負債合計は222億73百万円となり、前連結会計年度末に比べ19億37百万円減少しました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は352億22百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億6百万円増加しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益が14億23百万円であったことによるものであります。この結果、自己資本比率は54.3%（前連結会計年度末は51.8%）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、法人税等の支払や有形固定資産の取得、借入金の返済による支出、配当金の支払等があったものの、税金等調整前四半期純利益を24億72百万円、減価償却費6億72百万円の計上や、売上債権、棚卸資産の減少による収入等があったため、前連結会計年度末に比べ2億1百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末には10億2百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は20億35百万円(前年同期比27億21百万円収入の増加)となりました。これは主に、法人税等の支払額が14億90百万円であったものの、税金等調整前四半期純利益が24億72百万円、減価償却費が6億72百万円であったことや、売上債権の減少が5億76百万円、たな卸資産の減少が3億58百万円であったこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は8億77百万円(同6億30百万円支出の増加)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が6億41百万円、貸付けによる支出が1億75百万円あったこと等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は9億52百万円(同19億91百万円支出の増加)となりました。これは主に、短期借入金の純増減額による支出が5億60百万円、長期借入金の返済による支出が1億19百万円、配当金の支払額が3億97百万円であったこと等によるものです。

(3) 事業及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は株式会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に定める事項)は次のとおりです。

会社の支配に関する基本方針

当社は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者は、当社の経営理念や当社企業価値の様々な源泉、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保、向上させる者でなければならないと考えております。

一方、当社の株式は上場株式であることから、当社の株主は、市場での自由な取引を通じて決まるものであるとともに、会社の財務および事業の方針の決定を支配する者も株主の皆様意思に基づき決定されるべきものと考えており、また、当社の支配権の移転を伴う大規模な買付行為や買付提案がなされた場合にこれに応ずるか否かの判断も最終的には株主の皆様全体の意思に基づき行われるべきものと考えております。

しかしながら、このような株式の大規模な買付行為や買付提案の中には、その目的等から見て企業価値ひいては株主共同の利益に対して明白な侵害をもたらすおそれのあるもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれのあるもの、対象会社の株主や取締役会が買付や買収提案の内容等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提示するために合理的に必要な時間や情報を提供することのないもの、買付条件等が対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益に照らして著しく不十分または不相当であるもの、対象会社の企業価値の維持・増大に必要なステークホルダーとの関係を破壊する意図のあるもの等、対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

当社は、上記の例を含め当社の企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのある大規模な買付等を行う者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えます。

会社の支配に関する基本方針の実現に資する取組みの概要

当社では、当社の企業価値ひいては株主共同の利益向上のために、次のような取組みを実施しております。

a. 企業価値ひいては株主共同の利益向上への取組み

当社は、平成23年10月に純粋持株会社体制に移行し、主要な連結子会社として、地球環境に配慮した配管機器をCKブランドで提供するユニークなメーカーであるシーケー金属株式会社と、日本最大の黄銅棒・線メーカーであるサンエツ金属株式会社を有し、戦略的なグループ経営に集中・特化しております。

当社グループの主力事業領域である、「伸銅事業」「精密部品事業」「配管・鍍金事業」における国内市場は、今後、長期的に縮小均衡を模索するものと思われ、業界再編が避けられない状況にあります。

このような経営環境に対応すべく、当社グループでは、同業他社とのM&Aによる展開を積極的に推進する一方で、経営理念として、「(a) 良いものだけを、安く、早く、たくさん生産することで、社会に貢献します。(b) 努力するに値するプロの仕事と、働きがいのある職場を提供することで、社会に貢献します。(c) 期待され、期待に応え、期待を超えるため、弛みない努力を重ねます。」を掲げ、『地味だけど凄い価値の創造』を目指してまいります。

b. コーポレート・ガバナンスの充実への取組み

経営の透明性、効率性、健全性を通して、企業理念の実現を図り企業価値を高め、社会的責任を果たしていくことが当社のコーポレート・ガバナンスの基本的な考え方であります。

また、当社は、企業理念に基づき経営の効率化や経営のスピード化を徹底し経営目標達成のために、正確な情報収集と迅速な意思決定ができる組織体制や仕組み作りを常に推進しております。

株主・投資家の皆様をはじめ、当社を取り巻くあらゆるステークホルダーへ迅速かつ正確な情報開示に努め、平成28年6月23日開催の定時株主総会決議により、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行することで、これまで以上に透明性の高い経営の実現と経営の機動性の向上を目指していきたいと考えております。この一環として従来から社外役員を選任しており、現在も社外取締役3名を選任しております。

このような考え方に基づいて、(a)取締役会による経営に関する重要事項の決定と各部門の業務執行の監督、(b)社長直轄の監査・規格管理部による内部監査の実施、(c)監査等委員会による取締役の職務執行についての監査、監督、(d)「C Kサンエツグループコンプライアンス基本方針」「C Kサンエツグループ行動規範」「公益通報者保護規程」の整備等による法令遵守体制およびリスク管理体制の強化、(e)内部統制体制の整備と業務プロセス改善、等の施策を実行しております。

今後もこうした方針と施策を継続して、コーポレート・ガバナンスの充実に努め、企業価値ひいては株主共同の利益を追求してまいります。

当社グループでは、多数の投資家の皆様に長期的に当社への投資を継続していただくため、企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるための取組みとして、以上のような施策を実施しております。これらの取組みは、上記の基本方針の実現にも資するものと考えております。

会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止する取組みの概要

当社は、平成30年5月10日に開催された当社取締役会において、会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止する取組みとして「当社株式の大規模買付行為に関する対応策」（以下「本プラン」といいます。）を以下のとおり決定し、平成30年6月21日開催の当社定時株主総会において、株主の皆様にご承認いただき更新しております。その概要は以下のとおりです。

a. 本プランの対象となる当社株式の買付

本プランの対象となる当社株式の買付とは、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為、または結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社の他の株主との合意等をいい、かかる買付行為または合意等を行う者を「大規模買付者」といいます。

b. 大規模買付ルール概要

当社が設定する大規模買付ルールとは、事前に大規模買付者が取締役会に対して必要かつ十分な情報を提供し、取締役会による一定の評価期間（以下「取締役会評価期間」といいます。）または、株主検討期間を設ける場合には取締役会評価期間と株主検討期間が経過した後大規模買付行為を開始するというものです。

c. 大規模買付行為が実施された場合の対応

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、当社取締役会は、仮に当該大規模買付行為に反対であったとしても、当該買付提案についての反対意見を表明したり、代替案を提示することにより、株主の皆様を説得するに留め、原則として当該大規模買付行為に対する対抗措置は講じません。

ただし、大規模買付ルールを遵守しない場合や、遵守されている場合であっても、当該大規模買付行為が、結果として当社に回復し難い損害をもたらすなど、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと当社取締役会が判断した場合には、対抗措置を講ずることがあります。具体的にいかなる手段を講じるかについては、新株予約権の無償割当てその他の法令および定款の下にてとりうる合理的施策等その時点で当社取締役会が最も適切と判断したものを選択することとします。

d. 対抗措置の客観性・合理性を担保するための制度および手続

対抗措置を講ずるか否かについては、当社取締役会が最終的な判断を行います。本プランを適正に運用し、取締役会によって恣意的な判断がなされることを防止し、その判断の客観性・合理性を担保するため、独立委員会を設置しております。

対抗措置を講ずる場合、その判断の客観性・合理性を担保するために、取締役会は対抗措置の発動に先立ち、独立委員会に対して対抗措置の発動の是非について諮問し、独立委員会は、対抗措置の発動の是非について、勧告を行うものとします。

e. 本プランの有効期限等

本プランの有効期限は、平成33年（2021年）6月開催予定の当社定時株主総会終結の時までとし、以降、本プランの更新（一部修正したうえでの更新を含む。）については3年ごとに定時株主総会の承認を得ることとします。

ただし、有効期間中であっても、株主総会または取締役会の決議により本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、その時点で廃止されるものとします。

更新後の本プランの詳細につきましては、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.cksanetu.co.jp>）に掲載しております。

本プランが会社の支配に関する基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致し、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないことについて

当社では、本プランの設計に際して、以下の諸点を考慮することにより、本プランが会社の支配に関する基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致するものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものとはならないと考えております。

a. 買収防衛策に関する指針の要件を充足していること

本プランは、経済産業省および法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則）を充足しています。

また、経済産業省に設置された企業価値研究会が平成20年6月30日に発表した報告書「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策のあり方」の内容も踏まえたものとなっております。

b. 株主共同の利益の確保・向上の目的をもって導入されていること

本プランは、上記に記載のとおり、当社株式に対する大規模買付行為がなされた際に、当該大規模買付行為に必ずすべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保し、または株主の皆様のために買付者等と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって導入されるものです。

c. 株主意思を反映するものであること

本プランは、平成30年6月21日に開催した当社株主総会において、本プランに関する株主の皆様のご意思を確認させていただくため、本プランについて議案としてお諮りし原案どおりご承認いただきましたので、株主の皆様のご意向が反映されたものとなっております。

また、本プラン導入後、有効期間中であっても、当社株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されることになり、株主の皆様のご意向が反映されます。

d. 独立性の高い社外者の判断の重視

本プランにおける対抗措置の発動は、上記に記載のとおり、当社の業務執行を行う経営陣から独立している委員で構成される独立委員会へ諮問し、同委員会の勧告を最大限尊重するものとされており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するよう、本プランの透明な運用を担保するための手続も確保されております。

e. デッドハンド型およびスローハンド型買収防衛策ではないこと

本プランは、当社の株主総会において選任された取締役により構成される取締役会によって廃止することが可能です。したがって、本プランは、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交代させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。また、当社は期差任期制を採用していないため、スローハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の交替を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策）でもございません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、65百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	29,600,000
計	29,600,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成30年11月14日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	8,867,000	8,867,000	東京証券取引所市場第一部	単元株式数 100株
計	8,867,000	8,867,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減額(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成30年7月1日～ 平成30年9月30日	-	8,867,000	-	2,756	-	2,671

(5)【大株主の状況】

平成30年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
C Kサンエツ取引先持株会	富山県高岡市守護町二丁目12番1号	970	10.95
C Kサンエツ従業員持株会	富山県高岡市守護町二丁目12番1号	914	10.31
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	874	9.86
株式会社北陸銀行	富山県富山市堤町通り一丁目2番26号	370	4.17
株式会社北國銀行	石川県金沢市広岡二丁目12番6号	330	3.72
株式会社ツリヤ経営	富山県高岡市末広町2番32号	277	3.12
釣谷 圭介	富山県高岡市	251	2.84
東泉産業株式会社	静岡県静岡市葵区流通センター12番5号	193	2.18
富源商事株式会社	富山県高岡市昭和町三丁目3番10号	181	2.04
株式会社リケン	東京都千代田区三番町8番1号	152	1.71
計	-	4,514	50.91

(注) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数のうち、「従業員持株会信託型ESOP」に係る株式数は434千株、「役員向け株式交付信託」に係る株式数は352千株であります。なお、当該株式はいずれも四半期連結財務諸表上、自己株式として処理しております。

(6)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,864,300	88,643	-
単元未満株式	普通株式 1,800	-	-
発行済株式総数	8,867,000	-	-
総株主の議決権	-	88,643	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数20個が含まれております。
2. 「完全議決権株式(その他)」の欄のうち、787,000株(議決権の数7,870個)は、「従業員持株会信託型ESOP」及び「役員向け株式交付信託」を導入したことに伴い、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)が所有しているものであります。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社C Kサンエツ	富山県高岡市守護町二丁目12番1号	900	-	900	0.01
計	-	900	-	900	0.01

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、新日本有限責任監査法人は平成30年7月1日付をもって名称をEY新日本有限責任監査法人に変更しております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	801	1,002
受取手形及び売掛金	2 24,995	2 24,388
商品及び製品	5,461	5,233
仕掛品	5,472	5,497
原材料及び貯蔵品	4,552	4,381
その他	291	423
貸倒引当金	98	91
流動資産合計	41,475	40,834
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,199	10,275
減価償却累計額	4,845	5,009
建物及び構築物(純額)	5,353	5,266
機械装置及び運搬具	20,517	20,951
減価償却累計額	18,229	18,619
機械装置及び運搬具(純額)	2,287	2,332
土地	6,508	6,480
建設仮勘定	155	155
その他	1,554	1,605
減価償却累計額	1,348	1,396
その他(純額)	205	209
有形固定資産合計	14,511	14,444
無形固定資産		
ソフトウェア仮勘定	212	261
その他	20	19
無形固定資産合計	232	280
投資その他の資産		
投資有価証券	1,416	1,466
退職給付に係る資産	26	26
繰延税金資産	404	389
その他	258	252
貸倒引当金	199	199
投資その他の資産合計	1,907	1,935
固定資産合計	16,650	16,661
資産合計	58,126	57,495

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,674	2,614
短期借入金	10,740	10,180
未払金	119	109
未払費用	800	732
未払法人税等	1,480	784
賞与引当金	921	944
設備関係支払手形	444	471
その他	604	648
流動負債合計	21,858	20,014
固定負債		
長期借入金	279	160
繰延税金負債	401	412
再評価に係る繰延税金負債	280	280
引当金	29	0
退職給付に係る負債	1,112	1,168
その他	247	236
固定負債合計	2,352	2,259
負債合計	24,211	22,273
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,756	2,756
資本剰余金	4,339	4,339
利益剰余金	23,224	24,248
自己株式	856	815
株主資本合計	29,464	30,529
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	127	136
土地再評価差額金	565	565
為替換算調整勘定	26	32
退職給付に係る調整累計額	1	0
その他の包括利益累計額合計	664	667
非支配株主持分	3,786	4,024
純資産合計	33,915	35,222
負債純資産合計	58,126	57,495

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	39,289	43,585
売上原価	34,473	39,204
売上総利益	4,815	4,380
販売費及び一般管理費		
荷造及び発送費	530	528
給料及び手当	502	538
退職給付費用	22	13
貸倒引当金繰入額	10	-
その他	990	1,001
販売費及び一般管理費合計	2,055	2,081
営業利益	2,760	2,299
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	19	18
デリバティブ利益	-	38
デリバティブ評価益	-	63
業務受託料	24	24
その他	69	97
営業外収益合計	113	243
営業外費用		
支払利息	4	5
為替差損	6	11
デリバティブ損失	98	-
デリバティブ評価損	283	20
その他	27	27
営業外費用合計	420	65
経常利益	2,453	2,477
特別利益		
固定資産売却益	-	0
投資有価証券売却益	54	0
補助金収入	32	35
その他	6	-
特別利益合計	93	36
特別損失		
固定資産除却損	1	0
固定資産売却損	0	38
投資有価証券売却損	10	-
その他	-	3
特別損失合計	11	42
税金等調整前四半期純利益	2,535	2,472
法人税等	808	813
四半期純利益	1,726	1,658
非支配株主に帰属する四半期純利益	207	235
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,519	1,423

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	1,726	1,658
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	32	18
為替換算調整勘定	0	5
退職給付に係る調整額	44	0
その他の包括利益合計	75	12
四半期包括利益	1,802	1,671
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,595	1,427
非支配株主に係る四半期包括利益	207	244

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,535	2,472
減価償却費	702	672
有形固定資産除却損	1	0
有形固定資産売却損益(は益)	0	37
投資有価証券売却損益(は益)	44	0
為替差損益(は益)	6	11
貸倒引当金の増減額(は減少)	10	7
賞与引当金の増減額(は減少)	22	22
環境安全対策引当金増減額(は減少)	-	29
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	91	56
受取利息及び受取配当金	19	18
支払利息	4	5
売上債権の増減額(は増加)	2,459	576
たな卸資産の増減額(は増加)	1,255	358
その他の流動資産の増減額(は増加)	60	13
仕入債務の増減額(は減少)	87	560
未払消費税等の増減額(は減少)	54	79
デリバティブ評価損益(は益)	283	43
その他の流動負債の増減額(は減少)	98	28
その他	79	78
小計	76	3,512
利息及び配当金の受取額	19	18
利息の支払額	4	5
法人税等の支払額	625	1,490
営業活動によるキャッシュ・フロー	686	2,035
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	467	641
有形固定資産の売却による収入	-	11
無形固定資産の取得による支出	3	49
投資有価証券の取得による支出	127	24
投資有価証券の売却による収入	341	0
貸付けによる支出	-	175
貸付金の回収による収入	10	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	247	877

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	1,270	560
長期借入金の返済による支出	201	119
自己株式の処分による収入	102	130
子会社の自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	132	397
非支配株主への配当金の支払額	-	5
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,038	952
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	3
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	103	201
現金及び現金同等物の期首残高	752	801
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	31	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	888	1,002

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
受取手形割引高	385百万円	180百万円

2 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
受取手形	1,656百万円	1,902百万円
割引手形	155百万円	100百万円
支払手形	13百万円	14百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
現金及び預金勘定	888百万円	1,002百万円
現金及び現金同等物	888	1,002

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月23日 取締役会	普通株式	132	15.0	平成29年3月31日	平成29年6月23日	利益剰余金

(注)平成29年5月23日取締役会の決議による配当金の総額には、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)が所有する当社株式に対する配当金14百万円が含まれております。

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年11月14日 取締役会	普通株式	132	15.0	平成29年9月30日	平成29年12月5日	利益剰余金

(注)平成29年11月14日取締役会の決議による配当金の総額には、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)が所有する当社株式に対する配当金12百万円が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年5月21日 取締役会	普通株式	398	45.0	平成30年3月31日	平成30年6月22日	利益剰余金

(注)平成30年5月21日取締役会の決議による配当金の総額には、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)が所有する当社株式に対する配当金37百万円が含まれております。

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年11月14日 取締役会	普通株式	265	30.0	平成30年9月30日	平成30年12月4日	利益剰余金

(注)平成30年11月14日取締役会の決議による配当金の総額には、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)が所有する当社株式に対する配当金23百万円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	伸銅	精密部品	配管・鍍金	合計
売上高				
外部顧客への売上高	33,288	1,987	4,013	39,289
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,006	33	0	2,040
計	35,294	2,021	4,013	41,330
セグメント利益	2,265	29	332	2,627

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,627
セグメント間取引消去	407
全社費用	275
四半期連結損益計算書の営業利益	2,760

当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	伸銅	精密部品	配管・鍍金	合計
売上高				
外部顧客への売上高	36,739	2,208	4,637	43,585
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,075	34	0	2,110
計	38,814	2,243	4,638	45,695
セグメント利益	1,460	139	561	2,161

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,161
セグメント間取引消去	399
全社費用	261
四半期連結損益計算書の営業利益	2,299

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	190円22銭	176円68銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	1,519	1,423
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	1,519	1,423
普通株式の期中平均株式数(株)	7,987,252	8,056,708

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 「普通株式の期中平均株式数」は日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)が所有する当社株式787千株(前年同期は856千株)を控除しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成30年11月14日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....265百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....30円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成30年12月4日

(注) 平成30年9月30日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月14日

株式会社C Kサンエツ

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池田 裕之 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石田 健一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社C Kサンエツの平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社C Kサンエツ及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。